

音楽とは 横への感性なり!

合唱団ホームページアドレス
<https://www.wiengifu.org>

3月号

2023年3月1日

編集・発行

ウィーン岐阜合唱団

まち ごと おどたの
岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保



25周年祝賀パーティを終えて 実行委員長 見田村勝信

ウィーン岐阜合唱団25周年記念祝賀パーティを成功裏に終えることができ大変良かったです。コロナ禍でもあり、当初は合唱団員を含めても100名も難しいという大方の予想を覆し、参加者は総勢168名、お客様も105名をお迎えすることができました。これだけ多くの方に来ていただき、喜んでいただけたことは本当に素晴らしいことです。そしてお客様の中には私が15年前の入団当時、お世話になった方も多くこれ大変懐かしく、旧交を温めることができました。

成功の要因を考えてみますと、素晴らしい音楽はもちろんですが、何といても一番は、大勢の人にPRされた平光先生の熱意です。まさに脱帽です。ホテルでオーケストラの演奏を聴き、食事をする。これほど贅沢なことはありません。しかしお客様が少なければ成立しません。オーケストラの演奏はやはり十分に人を惹きつける魅力があります。それを指揮者としてまとめられる平光先生のご努力は大変なものだと思いますが、管弦楽団の皆様の素晴らしい技量はまさにプロです。そういった意味からいえば今回の25周年祝賀パーティはウィーン岐阜合唱団の25周年であると同時に、ウィーン岐阜管弦楽団の25周年ともいえるべきものです。

会場を見回しますと、女性団員のでやかな和洋の艶姿。まさに宮廷音楽ならぬ宮中晩さん会ともいえるべきもので、聴いては良し、見ては良しの雰囲気盛り上げていただけました。

そしていつも定演の時にお世話になっている舞台監督の近藤さち子さんによる進行表は完璧で、メリハリ良く時間通りに終わることができました。準備段階でも経験豊かなスタッフの皆さんが手際よく準備していただき、当日のお客様のお迎えも非常にスムーズにできました。本当に団員の皆様のパワーはすごいものがあります。実際、実行委員長のわたくしは何もすることがありませんでした。

ただ唯一残念なのは、お客様の中に岐阜の音楽界の方が少なかったことです。まさに画竜点睛を欠くの感がします。そして私たちは来られたお客様に感謝の思いを馳せると同時に来られなかった方にも思いを馳せることが明日につなげるために大事と思います。

今まさに世界は平和の危機に見舞われています。そして3年にわたって続いたコロナ禍も終息とは言えないものの、日常の中に取り込まれようとしています。いままでの空白を取り戻すべく、年末には全員でベートーヴェンの第九を高らかに歌うことを願っています。

ウィーン岐阜合唱団創立25周年おめでとう

元団長 山口 弘



ウィーン合唱団と私との縁は、2004年7月の第7回定期演奏会から始まります。第7回定期演奏会は、羽島文化センターで開催されました。友人からチケットをもらって会場へ行きました。オペラ「ヘンゼルとグレーテル」はヘンゼルが伴和子先生、グレーテルは伴真由子先生。合唱団は故郷、春の小川、朧月夜等で、演奏が終わって入団のお誘いがあり、団員の皆さんの合唱を聴いて、これなら私でも歌えるかもと、即入団しました。今から19年前です。

以来、毎週木曜日の練習、年2回の定期演奏会、演奏会に備えての奥飛騨や、奥美濃での合宿晩さん会、木曜夜の練習後の「喫茶元町」の懇談や、美濃市山荘での「しし鍋」会など楽しい団生活でした。

2008年には団長として創立10周年を迎え、25周年と同じ岐阜グランドホテルでの記念式典や、記念誌の発行、また平光先生と上山先生の音楽論議（手紙のやりとり）を編纂した冊子「上山語録」等発行したりしました。

団員も着実に増え“第九”の入場者は2008年1,169人、2009年1,439人、2010年1,362人と盛況でした。ローソンなどのチケット販売も100枚近くありました。

ヨーロッパ“第九”音楽友好の旅は、第3回（ブルガリア）第4回（ミュンヘン・ウルム）に参加しました。ベートーヴェンの館を見学した時の事です。館内のスピーカーから流れる“第九”に合わせ「ラオフェト ブリュダーオイウラ・バーン フロイティヒ ヴィー・アイン・ヘッルド・ツム・ズィーゲン・・・」とロズさんでいました。これを館長が聴き、東洋人がドイツ語で歌っていることに感動したのでしょうか。ベートーヴェンが弾いたピアノを平光先生が弾くというハプニングが生まれたのも忘れられない思い出です。

コロナ禍を克服して、いよいよ“第九”再開ですね。岐阜の街にウィーンの如く、高らかに皆様のハーモニーを響かせてください。ご成功を祈ります。

あれからシリーズ第3弾「あれから25年経ったのですね。」

岐阜・テノール 垣見育男

会議中に携帯が鳴りました。広報の方からの原稿依頼でした。「今思っている事とこれからの事を書いてください。期限は10日後でお願いします。」と明るい声で。気力の劣化防止と知力表現力の陳腐化防止のチャンスと思い快諾しましたが、今は後悔しています。

第一章 「継続は力」なり。されど「継続には力」がいる。

先生は25年前に覚悟されたのですね。「創立25周年パーティー」は驚きました。現団員以外の方105名参加。2次会では、先生から至近距離で音楽への想いや潔さを伺いました。先生の音楽と側面を持った人々が時空を超えて参加される理由が解りました。団員もその想いを正しく受け取り、個人練習を続け、全体練習で1000本ノックを受ける。そしてステージでは、想定外と言われる出来栄え。しかしそれは偶然ではなく必然のこと。「継続は力」なり。いやいや「継続には力」がいる。

先生やボイストレーナー、伴奏者の親身な支援とスタッフの努力で、偶然が必然となる。

第二章 「合唱は密だ」

「青春は密だ。」夏の甲子園優勝監督の言葉。参りました。国家経済社会保障などいろいろな分野で分断が進む。さらにコロナ禍で、分断することが正義というような指針を国家が示し、メディアも論評し煽り、国民も従う。2年前の合唱団ニュースに「人はパンとワインのみに生きるものにあらず。心に従い文化芸術とも触れ合う。それで感染した時は静かに去る。」と自分なりの覚悟を書きました。この3年間 合唱をやっていることは「秘密」のような「潜伏キリシタン」のような日々でした。今回のパーティーでの合唱で、隣の方の音を聴き、他のパートの響きに合わせ、先生のスイングに身を置きながら唄えました。「音楽とは 横への感性なり！」 合唱は秘密ではなく 秘蜜だ。

第三章 年末に長崎に行ってきました。

想定外の雪でした。いくつかの教会と平和公園に行きました。宿命を包み込んだ地層を見ました。「土の歌」の作詞者 大木惇夫さんの故郷の広島ではないですが、同じ経験をした場所です。歌詞を読み直しました。今までと違った重さで詩が心に染み込みました。今は、春に向けモグラが荒らす畑をトラクターで音取りしながら耕しています。2年前は「カラス」でしたが、今は「大地讃頌」です。土はいつもより深く耕し、そして種子を待っているようです。

第四章 どうする垣見

「劣化するオッサン」(山口周著)を読みました。70歳以上は教養世代。50歳以下は実学世代だそうです。60歳代は芸術も科学も求めず、意見を戦わせず、退くこともしない。50歳代の著者に大きなお世話と思いつつも、納得している自分がここにいる。

今 第二の人生で何をしたいか成りたいかを、会社人生とのリレーゾーンで整理しています。どこかの組織に所属し安心感を得たい。そしてその組織であわよくば、良い評価をいただき自分を認められたい。その中で自由にそして自分らしく振舞い行いたい。ウィーン岐阜合唱団は 先生やスタッフの方の親身な支援や不自由な想いの上で成り立っている。このような素晴らしい場を享受し身を置くのは楽だけど、自分らしくない。

私は「一隅を照らす」人でありたい。

昨年末 各務原市中央図書館の入口で、定期演奏会のリーフレットを見ました。うれしいような照れくさいような気持ちで素通りしました。先週、同じ場所で親子がそのリーフレットを見ていました。自然にその場に行き、「私はその団員です。是非聴きにきてくださいね。」と伝えました。それは、団のためではなく、私自身の自由な自然な行動だったと確信しています。これで、「あれからシリーズ3部作」を終了します。夏目漱石のように後期3部作はありません。最後までお読みいただきありがとうございました。

3月～5月の練習予定

♪～準備が先、声は後～♪

平日 (18:30～20:30)		日曜 (14:00～16:00)
岐阜 長森コミュニティーセンター	大垣 大垣市南地区センター	各務原 ウィーン岐阜ホール
3月2日(木)	3月3日(金)	3月5日(日)
3月9日(木)	3月10日(金)	3月12日(日) 合同強化練習
3月12日(日) 13:30～16:30 合同強化練習(長森CCにて)		
3月16日(木)	3月17日(金)	3月19日(日) 合同強化練習
3月19日(日) 13:30～16:30 合同強化練習(長森CCにて)		
3月23日(木) 18:30～20:30 オケ合わせ(大垣北地区センター:林町6-105) 058-481-7171		
3月25日(土) 13:30～16:30 前日練習(長森CCにて)		
3月26日(日) ウィーン岐阜合唱団第24回定期演奏会(サンシャインホール) 瑞穂市総合センター(瑞穂市別府1283) 058-327-7586		
3月30日(木) 休み	3月31日(金) 休み	4月2日(日) 休み
4月6日(木)	4月7日(金)	4月9日(日)
4月13日(木)	4月14日(金)	4月16日(日)
4月20日(木) 休み	4月21日(金) 休み	4月23日(日)
4月27日(木)	4月28日(金)	4月30日(日)
5月11日(木)	5月12日(金)	5月14日(日)
5月18日(木)	5月19日(金)	5月21日(日) 14:30～16:30
5月25日(木)	5月26日(金)	5月28日(日) 14:30～16:30

岐 卓 新 聞

2023年(令和5年)2月8日 水曜日

創立25周年、喜びの歌声

ウィーン岐阜合唱団が祝賀会

アマチュア混声合唱団

「ウィーン岐阜合唱団」の創立25周年を祝う「夢☆音楽パーティー」が岐阜市長の岐阜グランドホテルで開かれ、出席者らが音楽に親しみながら節目の年を祝った。

合唱団は1998年2月に発足。プロオーケストラのウィーン岐阜管弦楽団と共演し、定期演奏会やベートーベンの交響曲第9番を披露する第九演奏会を開くほか、ヨーロッパでの演奏会も行う。

パーティーには会員や関係者ら約170人が出席。ウィーン岐阜管弦楽団による演奏で、団員たちが「美しく青きドナウ」と「大地讃頌」を伸びやかな歌声で披露すると、出席者から大きな拍手が送られた。ベートーベンの「運命」の指揮を体験するコーナーなどもあった。

音楽総監督の平光保さんは「今年12月には4年ぶりとなる第九演奏会も行う。クラシックの魅力を伝え、岐阜をウィーンの街のごとく音楽豊かな街にしていきたい」と抱負を語った。

(小田香緒里)

広報より

皆様からのご意見・ご投稿をお待ちしております。ご投稿・ご質問等は下記までお問い合わせ下さい。

坂井 俊郎

mail : sakai_gifu@yahoo.co.jp

090-7041-9133

高橋 なお子

mail : wien.chorus2021@gmail.com

090-9933-0374